

## ブロック積の施工効率の向上

宮崎県土木施工管理技士会

湯川建設株式会社

施工主任

堀口悦克<sup>○</sup>

Yosikatu Horiguti

施工主任

盛武幸博

Yukihiro Moritake

### 1. はじめに

#### 工事概要

- (1) 工事名：平成20年度 水防災第2-3号  
北川上流 北川上流宅地嵩上  
盛土工事（瀬口地区）
- (2) 発注者：宮崎県 延岡土木事務所
- (3) 工事場所：宮崎県延岡市北川町瀬口
- (4) 工期：平成21年1月24日～  
平成21年11月10日

本工事は、台風等大雨時における浸水対策工事で既存の住宅の下に盛土を行い、住宅が浸水しないように対策する工事である。

### 2. 現場における問題点

右構造図（図-1）のように従来はブロック1石積み上げる毎に裏当てコンクリートの厚さに合わせた竹、木の棒等で厚さを確保していたが、裏込砕石投入時にはずれ作業効率が思わしくなかった。

### 3. 工夫・改善点と適用結果

- (1) 改善点の目標としてブロック積の作業性の効率化裏当てコンクリート厚の品質確保とした。

裏当てコンクリートの厚みが、48mm～160mmと変化するため、施工に際して裏当てコンクリー

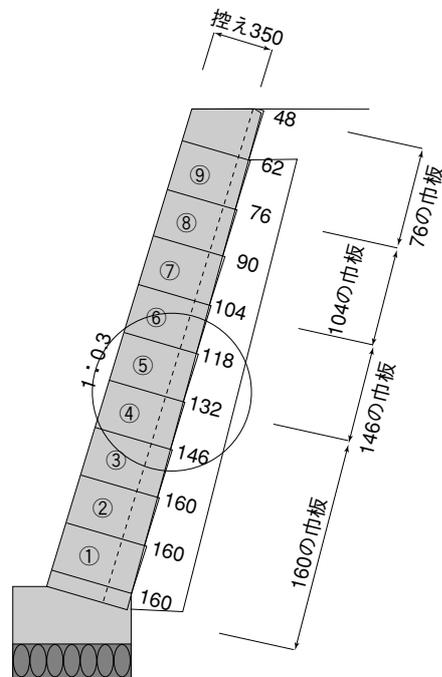


図-1 構造図

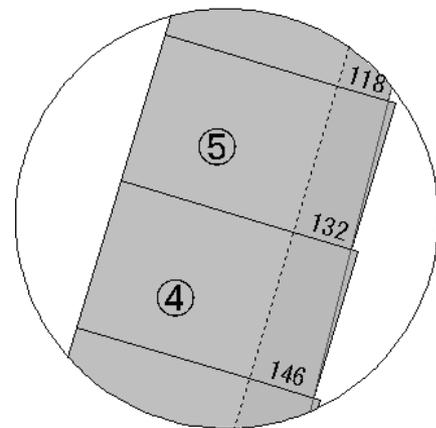


図-2 拡大図

トの厚さをどの様に確保するかが問題となった。  
この問題を解決するため裏当てコンクリートの厚さが変化するアナログ線を写真-1、写真-2、写真-3のように4種類の巾板を使用することでデジタル化を図った。



写真-1 4種類の幅板



写真-2 幅板 (160mm)



写真-3 幅板 (76mm)

## (2) 効果

この方法では、コンクリートの施工数量が増えるために、多少経済性に問題は有るものの、数種類の巾板を使用することで作業速度の効率化が図れブロック積の施工速度を短縮することができる。

また、裏当てコンクリートの厚みを設計値以上に確保でき品質確保には有効と思える。

## 4. おわりに

### 適用条件

裏当てコンクリートの厚みが均一でない構造のブロック積。

### 採用時の留意点

胴込コンクリートと裏込砕石を分ける裏当て板は曲げに対して強度のある鋼製の物を使用する。

巾板は設置間隔に留意する。(1石毎がよいと思われる。)

巾板は胴込コンクリート打設後引き抜き易いように長めに作ること。

上記に注意して幅板を準備すれば効率的に施工することができます。